

古文ドリル：「けむ」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「けむ」の3用法

古文の助動詞「けむ」は、**連用形接続**の**過去推量**の助動詞。過去について「～たであろう」と推測する。

用法	訳	判別ポイント
① 過去推量	～たであろう	過去の出来事を推測（文末）
② 過去の原因推量	（どうして）～たのだろう	「など・なぜ・いかで」と呼応
③ 過去の伝聞・婉曲	～たとかいう・～たような	体言の前

「らむ」（現在推量）の**過去版**にあたる助動詞。

識別の鉄則 1. 直後に体言 → 婉曲 2. 文中に疑問詞 → 原因推量 3. 上記以外で文末 → 過去推量

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「けむ」の直後が体言なら 即・婉曲

「けむ＋名詞」のパターンは **8割が婉曲**。考えずに即答してOK。例：住み**けむ**人 / 渡り**けむ**僧 / 咲き**けむ**花

→ 「**けむ＋人／僧／花／頃／こと**」を見たら即「婉曲」。

コツ② 文頭・文中の疑問詞 だけ拾え

「いかで／いかに／いかなる／なぜ／なぜ／何（なに・なん）／何処（いづこ）」のどれかが文中にあれば **原因推量**。他は無視してこの疑問詞だけ探すのが最速。

例：**なぜ**昔の都は捨てられ**けむ** / **いかなる**縁にて遭ひ**けむ**

→ 疑問詞ナシなら「過去推量」か「婉曲」のどちらかしか残らない。

コツ③ 文末「けむ。」は過去推量で確定

直後が句点／「かな」／「や」（終助詞）で文が終わる → 過去推量。例：花咲きけむ。／月愛でけむかな。

→ ただし「こそ」が前にあれば已然形「けめ」になる（「こそ～けめ」結び）。

コツ④ 「を」「が」が後ろにある → 準体・婉曲を疑う

「～けむを」「～けむが」は連体形＋準体助詞で、婉曲（～たというのを）と訳す。

試験本番でのチェック順序

1. 直後が体言 → 婉曲（即答）
2. 文中に疑問詞（いかで・なぜ・何など） → 原因推量
3. 文末（句点・かな・や） → 過去推量
4. 「こそ～けめ」 → 已然形・過去推量

→ この順番で3秒で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・「たる」「ける」「けり」を「けむ」と読み間違える → 「けむ」の「む」を必ず確認
- ・「けめ」は「こそ」の結びで已然形（過去推量・原因推量どちらでも）
- ・疑問詞があっても体言の前にあるなら婉曲が優先（例：「いかなる人けむ」より「いかなる人ありけむ」のように動詞下接かを見る）

採点表

- ・基礎（Q1～Q20）： /20
- ・標準（Q21～Q50）： /30
- ・応用（Q51～Q80）： /30
- ・入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔、ある所に住みけむ人。

Q2. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き都に花咲きけむ。

Q3. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

など昔の人は嘆きけむ。

Q4. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土に渡りけむ僧。

Q5. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔、世にありし人は皆、月を愛でけむ。

Q6. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる縁にて、かかる目に遭ひけむ。

Q7. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負ひけむ都鳥。

Q8. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の人、いま何処へ行きけむ。

Q9. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都に住みけむ人ら。

Q10. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の歌詠みは、いかに思ひけむ。

Q11. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き時代に栄えけむ国。

Q12. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥、わが思ふ人はありやなしやと、いかなるを問ひけむ。

Q13. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典作家、いかなる景色を見けむ。

Q14. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

鳴き渡りけむ鳥の声、なほ耳に残る。

Q15. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代にありけむこと、いま伝はらず。

Q16. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

なぞ昔の都は捨てられけむ。

Q17. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

過ぎし夏、海辺に遊びけむ人ら。

Q18. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代の宮、いま何処にありけむ。

Q19. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春に咲きけむ桜、なほ思ひ出づ。

Q20. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の都の道、いかなる人ら歩みけむ。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

Q21. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土の人、書きとどめけむ書物、いまも伝はる。

Q22. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかにありし世にやありけむ。

Q23. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

雪深く積もりけむ山、いまだ青し。

Q24. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

なぞ唐土の人は和歌を解せざりけむ。

Q25. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都を出でけむ人。

Q26. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる夢を見けむ人ぞ、いま起きたる。

Q27. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔より伝はりけむ話、なほ尽きず。

Q28. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が祖父、いかなる人にありけむ。

Q29. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏に祈りけむ僧、いまでもありや。

Q30. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いと尊くおはしけむ御方なり。

Q31. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかで春は来たりけむ。

Q32. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代にありし都人、月を愛でけむかな。

Q33. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

あひ知りけむ人にて、なほ親しき。

Q34. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘みけむ人ら、いまでも忘れず。

Q35. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかで悲しき夢を見けむ。

Q36. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が父、いま何方にありけむ。

Q37. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

京に住みけむ人、なほ忘れず。

Q38. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典の中にありけむ言葉。

Q39. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

笛の音を聞きけむ夜、なほ忘れがたし。

Q40. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかでかかる宝を得けむ。

Q41. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土に渡りけむ人々、なほ故郷を恋ふ。

Q42. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春の夜、見けむ月かげ、いまでも忘れず。

Q43. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の世、いかなる風ぞ吹きけむ。

Q44. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が母、若き時にいかにありけむ。

Q45. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

山中に隠れけむ人。

Q46. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き友、いま何方にありけむかな。

Q47. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春来にけむ頃、まだ雪深し。

Q48. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる御縁にて、かく長く生き給ひけむ。

Q49. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

風雅を解しけむ人にこそ、なほ尊し。

Q50. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き京を捨てけむぞ、惜しき。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

Q51. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけめ。

Q52. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いみじき宿世の人にありけむを、いま忘れぬ。

Q53. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかでかさるべき御縁にてありけむ。

Q54. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都に住みけむ人々、いまも消えぬ。

Q55. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き世にありけむ仏徳、いま尽きず。

Q56. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何の縁にて、かく永く語り伝へけむ。

Q57. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏前に祈りけむ心ぞ尊き。

Q58. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典作家、何を思ひて筆を執りけむ。

Q59. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

都人、唐土に渡りけむ頃、いま月清く。

Q60. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

かの人、若かりし頃は歌詠みけむを、いまは詠まず。

Q61. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代の人、いかなる文字を書きけむぞ。

Q62. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負ふ都鳥、ありし日に何を語りけむ。

Q63. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き寺を建てけむ人。

Q64. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春雨降りけむ夜、なほ忘れず。

Q65. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の出でけむ山際、なほ晴れわたる。

Q66. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

ありがたきもの、いま見えけむやうに、世になし。

Q67. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥、いかにありけむ。

Q68. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏の道、古き世に栄えけむを、いまや衰へぬ。

Q69. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

玉のごとくありけむ御身、いまや散りぬ。

Q70. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかで老いけむかと、嘆く。

Q71. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典をひもときしけむ人。

Q72. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春の野に咲きけむ花、いま尽きぬ。

Q73. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何の故にて、かかる目に遭ひけむ。

Q74. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

山深く隠れ住みけむ人、いまでも忘れず。

Q75. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかにか思ひけむかな、世の人の心。

Q76. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き人、皆嘆きけむ世の事。

Q77. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何処にありけむわが祖。

Q78. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春雪の降りけむ山里、なほ寒し。

Q79. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる人にありけむかと尋ぬ。

Q80. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き和歌を詠みけむ人々の心、いまも生きたり。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

Q81. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけめ、これらは、ただ夢のごとくにぞある。

Q82. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥、わが思ふ人はありやなしやと、いかにありけむ。

Q83. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春は名のための風の寒さや、谷の鶯歌は思へど、時にあらざりけむゆゑにこそ、声を立てね。

Q84. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古今の歌人、なほ心を尽くしてありけむ。

Q85. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

物のあはれを知りけむ人にこそ、なほ古典は伝はれ。

Q86. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

雪のいと高う降りけむを、今に思ひ出づ。

Q87. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何ゆゑに古典は伝はりけむ。

Q88. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春過ぎて夏来にけむ頃。

Q89. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都の人にあるけむを、世の人はいかでか知らむ。

Q90. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる宿世にてありけむにや、と思ふ。

Q91. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き時代に栄えけむ国も、いまや滅びぬ。

Q92. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏に祈りけむ僧、なほ生きてありけむ。

Q93. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代の歌人、いかにありけむかな。

Q94. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

風雅を解しけむ人にあらずは、これを尊しと思はじ。

Q95. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が祖の世にありて、いかにありけむかを尋ぬ。

Q96. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

嵐山の紅葉、いま錦のごとし。ありし日もかくありけむ。

Q97. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いみじき宿世にて、月を見**けむ**御方。

Q98. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典にあり**けむ**事、いま、こと多くなしと言ふべからず。

Q99. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

行く川のながれは絶えず、もとの水にあらず。古き人皆、これを見**けむ**。

合計 / 100

あとがき

「けむ」の識別の核心： - **直後**を確認：体言なら婉曲、文末なら推量 - **疑問詞**があれば原因推量 - 「けむ」は **過去のこと**を推測（現在の「らむ」と対比）
「けむ」「らむ」「べし」「まし」など、推量系の助動詞は、活用形・接続・意味の3点で区別すること。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太